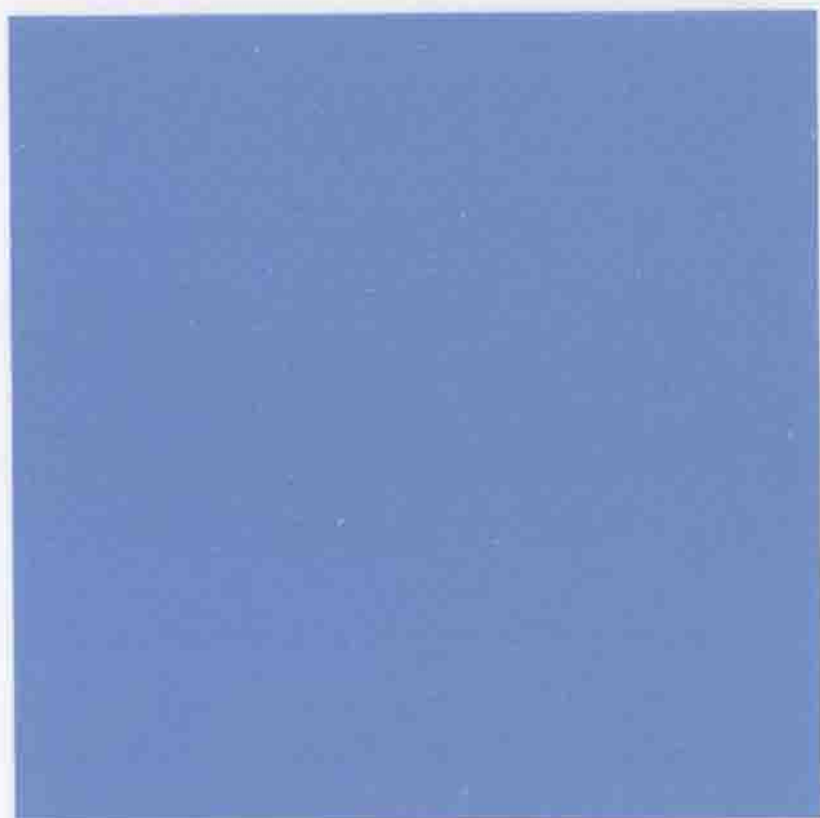


「戦後」を点検する

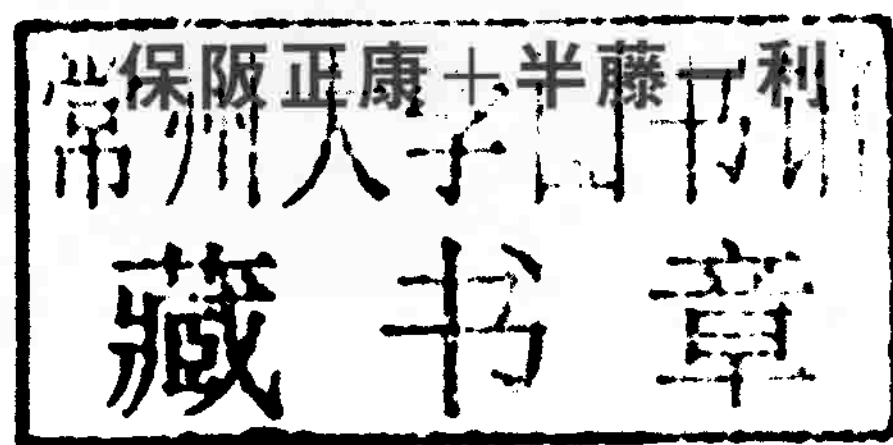
保阪正康＋半藤一利



講談社現代新書

2072

「戦後」を点検する



講談社現代新書

2072

講談社現代新書 2072

「戦後」を点検する

二〇一〇年一〇月二〇日第一刷発行 二〇一〇年一月二五日第二刷発行

著者 保阪正康 半藤一利 © Masayasu Hosaka, Kazutoshi Hando 2010

発行者 鈴木哲

発行者 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二 郵便番号 112-8001

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

〔R〕〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

複写を希望される場合は、日本複写権センター（〇三―三四〇一―二三八二）にご連絡ください。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

まえがき

保阪正康

9

第一章 いったい、いつまでが「戦後」なのか

世代論的に

13

スカイツリーを望みながら／「戦後昭和」を点検するということ
で／「亜元号」／父子合作？／「戦後」は昭和五十年まで／「近代日本
四十年周期説」／二〇三〇年問題が示唆すること／明治十一年
を起点にしてみると……／石橋湛山のすごさ／独立回復時、いく
つだったか／「戦後の精神」とは／応仁の乱のように

第二章　く帰り、くあがり、く崩れ

歴史のプリズムとして……………

49

傷痍軍人の記憶／流行歌と童謡から／五十人のうちの四人が／
「満洲帰り」にして「巣鴨帰り」の宰相／光クラブ／ゾル／憑き
ものが落ちるまで／東大医学部で／「獄中十八年」の威光／レッ
ド・ページへ／幻滅の果てに／軍人の復権？／やっぱり朝鮮戦争
／もうひとりの満洲帰り

第三章　一から出直し

明るさと無責任と……………

91

いったいどこに戻るのか／昭和天皇の意思／憲法改正の形式／し
れつとして／「八月革命説」／坂口安吾の『墮落論』／「大東亞戦争
調査会」／臣下を裁くのはしのびない／軍人への憎しみ／植民地

放棄／アジア解放の理想をもった日本人／「インドネシア・ラヤ」
／「でもこれは、あの戦争の全部じゃありませんよ」／独立回復

第四章 神武以来

神話の変容……

じつに秀逸な表現／軽くなった天皇／『日本のいちばん長い日』
を書いたとき／映画では……／神武東征をご存じですか／三笠宮
の紀元節反対／松本清張と『日本の歴史』／私がいただいてきた
原稿が／歴史の操作／亀井勝一郎という人／旭丘中学校事件／イ
デオロギーの呪縛

129

第五章 「安保反対」と「米帝」

対等への渴望……

じつは、あんまりなじみなし／「単独講和」で独立実現／旧安保
条約の問題点／なんとか対等にしたい／石橋から岸へ／「日米新
時代」と藤山外相の起用／勤評闘争／警職法改正問題／ソ連の脅

169

し／ラッパ／党内抗争／全学連、国会構内に突入／ブントの「米
帝」観／新安保調印／「極東の範囲」／今こそ国会へ行こう／「
崩れ」とも「く帰り」とも「くあがり」とも無縁／「黒いジェッ
ト機」と強行採決／デモとスト／運命の六月十五日／ついに自然
承認／祭のあと／ことばに酔うのは……

第六章 「日中友好」

歴史の合わせ鏡……

一辺倒／バンドン会議／石橋書簡／周恩来の指摘／池田勇人の施
政方針演説／LT貿易／東京オリンピックと原爆実験／「佐藤・
ジョンソン共同声明」／沖縄の祖国復帰が実現しない限り／すべ

ては日本が去ったあとで／北爆開始／文革期の沈滞／ニクソン・
ショック／国交正常化と断交と／横井さんと小野田さん

あとがき

半藤一利

.....282

「戦後」を点検する

保阪正康＋半藤一利

講談社現代新書

2072

目次

まえがき

保阪正康

9

第一章 いったい、いつまでが「戦後」なのか

世代論的に

13

スカイツリーを望みながら／「戦後昭和」を点検するということ
で／「亜元号」／父子合作？／「戦後」は昭和五十年まで／「近代日本
四十年周期説」／二〇三〇年問題が示唆すること／明治十一年
を起点にしてみると……／石橋湛山のすごさ／独立回復時、いく
つだったか／「戦後の精神」とは／応仁の乱のように

第二章　く帰り、くあがり、く崩れ

歴史のプリズムとして……………

49

傷痍軍人の記憶／流行歌と童謡から／五十人のうちの四人が／
「満洲帰り」にして「巢鴨帰り」の宰相／光クラブ／ゾル／憑き
ものが落ちるまで／東大医学部で／「獄中十八年」の威光／レッ
ド・ページへ／幻滅の果てに／軍人の復権？／やっぱり朝鮮戦争
／もうひとりの満洲帰り

第三章　一から出直し

明るさと無責任と……………

91

いったいどこに戻るのか／昭和天皇の意思／憲法改正の形式／し
れつとして／「八月革命説」／坂口安吾の『墮落論』／「大東亜戦争
調査会」／臣下を裁くのはしのびない／軍人への憎しみ／植民地

放棄／アジア解放の理想をもった日本人／「インドネシア・ラヤ」
／「でもこれは、あの戦争の全部じゃありませんよ」／独立回復

第四章

神武以来

神話の変容……

じつに秀逸な表現／軽くなった天皇／『日本のいちばん長い日』
を書いたとき／映画では……／神武東征をご存じですか／三笠宮
の紀元節反対／松本清張と『日本の歴史』／私がいただいてきた
原稿が／歴史の操作／亀井勝一郎という人／旭丘中学校事件／イ
デオロギーの呪縛

129

第五章

「安保反対」と「米帝」

対等への渴望……

じつは、あんまりなじみなし／「単独講和」で独立実現／旧安保
条約の問題点／なんとか対等にしたい／石橋から岸へ／「日米新
時代」と藤山外相の起用／勤評闘争／警職法改正問題／ソ連の脅

169

し／ラッパ／党内抗争／全学連、国会構内に突入／ブントの「米
帝」観／新安保調印／「極東の範囲」／今こそ国会へ行こう／「
崩れ」とも「く帰り」とも「くあがり」とも無縁／「黒いジェツ
ト機」と強行採決／デモとスト／運命の六月十五日／ついに自然
承認／祭のあと／ことばに酔うのは……

第六章 「日中友好」

歴史の合わせ鏡……

一辺倒／バンドン会議／石橋書簡／周恩來の指摘／池田勇人の施
政方針演説／LT貿易／東京オリンピックと原爆実験／「佐藤・
ジョンソン共同声明」／沖縄の祖国復帰が実現しない限り／すべ

ては日本が去ったあとで／北爆開始／文革期の沈滞／ニクソン・
ショック／国交正常化と断交と／横井さんと小野田さん

あとがき

半藤一利

.....



保阪正康氏

半藤一利氏

まえがき

「昭和」という時代にはさまざまな顔がある。国家としての顔、と言い変えるならば、主に三つの顔を中心になりたっているといえるであろう。

第一の顔は、昭和二十年八月十五日までの軍事主導体制下の少々いかめしい、あるいはいささか目のつりあがった余裕のない顔といえようか。私はこの期を昭和前期と評しているが、この硬直した顔は本来の日本人の表情といえるだろうかとの思いをもつ。第二の顔は、戦争に敗れてアメリカを中心とする連合国の占領支配を受けたときの困惑した顔、いやとにかく生きなければとの必死の形相という表現が似合うように思う。これを昭和中期と評そうか。

そして第三の顔である。昭和二十七年四月二十八日に独立を回復して、国際社会に復帰したときの安堵あんどの顔である。むろんこの昭和後期は昭和二十七年のこの日から六十四年一月七日までの三十六年余も続くわけだから、安堵の顔も変化していくのだが、怒り、充足、自信、落胆などの変容はとげている。しかし総じて安堵の表情だったと語り